

団体名：一般社団法人 Shien

取組地域：京都府 京田辺市

取組名：自治会運営の変革（地域デジタル化推進支援）×住民の孤独・孤立を防ぐ取組

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
☆ 地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置	☆	支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実	☆	SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援	☆	官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

☆ 多世代	こども・若者	☆ 中高年者	★ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
☆ 子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

（1）取組の内容

目的	自治会運営の変革（地域デジタル化推進支援）により、高齢世代と若い世代を融合させ、共助によるデジタルデバイド（情報格差）の解消からデジタルリテラシーの向上を図り、持続可能な ICT を活用した協働まちづくりを目指す。
対象とした人	京都府京田辺市における下記 4 つの自治会加入世帯が対象 (山手東自治会・大住ヶ丘連合自治会・山手西自治会・健康ヶ丘区自治会)
内容	これまでの自治会組織の情報共有手段（回覧板・掲示板・町内放送）を迅速かつタイムリーな情報共有手段（電子回覧板アプリ結ネット）に変更し、新たに地域をつなぐことで住民の孤独・孤立を防ぐ取組を行った。 また、デジタル機器を保持されていない高齢者を対象に見守り機器マゴスピーカー（IoT）と結ネット（ICT）を連動させた日々の見守りと災害時安否確認訓練を行い、誰一人取り残さないデジタル化推進支援を実施した。

(2) 取組の成果

連携した団体	京田辺市と連携し、市内 4 つの自治会において、自治会の課題解決を目的とした電子回覧板アプリ結ネットを活用した自治会運営のデジタル化推進実証実験を行った。
対象とした人とつながるために行った工夫	自治会役員を対象とし、電子回覧板結ネットを活用いただき、その機能性及び必要性を体感いただいた。当初はデジタルへの不審・不安があったが、電子回覧板結ネットの機能性の実演を重ねることで、関心や共感に変化した。また、電子回覧板結ネットの説明会において、これまで放置されてきた地域の課題を取り上げ、具体的な解決策を提案することで役員間の協力体制が強化され、デジタル化の推進が地域の課題解決につながることが理解された。
定性的な成果 定量的な成果	自治会が抱える課題解決を図るためにデジタル機器を活用する効果を住民及び行政が理解できたことが成果であり、この成果により行政との連携協定の検討にもつながった。また、4 つの自治会による実証実験に約 1,200 人の自治会加入世帯が参加し、その効果を体感したことで、5 つめとなる 1,100 世帯加入自治会の来年度導入検討にもつながった。 これらの成果から、デジタル技術で地域をつなげることが、住民の孤独・孤立の予防にもつながることを確信できた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 Shien
代表者	山田 浩史
設立年月日	2018 年 7 月 2 日
スタッフ数	2 人
団体住所	大阪府岸和田市作才町 1254-803
ウェブサイト	https://shien-yuinet.jp/shien/
メッセージ	人と人を結ぶことで町は変わると確信しています。自治会運営の人手不足を補う地域のデジタル化推進支援から高齢者を支え、災害に強い、住み続けられるまちづくりを一緒に目指しませんか。

団体名：一般社団法人 NIMO ALCAMO

取組地域：大阪府、京都府内の全市町村

取組名：休職者・離職者のための居場所運営と、つながりをつくる支援人材育成

取組の種類

1. つながりの場づくり	
☆ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり
食を通じたつながり	★ 働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築	
地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援	
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組	
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化	
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	★ こども・若者	中高年者	高齢者	☆ 障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯		不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	☆ 支援者支援

(1) 取組の内容

目的	カフェ等を入口にした無料の居場所相談を継続することで、これまで行政等の支援につながっていなかった若者へのアウトリーチを行う。支援者育成の課題を解決することにより、大阪を中心とした関西圏における制度の狭間で困窮する若年層の根本的な支援ができるネットワークを構築していく。
対象とした人	①休職中、離職中等、仕事から離れることにより居場所を失ったり、生活を大きく見直さないといけなくなってしまった若者の他、問題が大きくなっていない状態でも、誰かに相談をしたいという思いのある人 ②「居場所」等で働く支援者
内容	①カフェ等を入口にした無料の居場所相談を継続することで、これまで行政等の支援につながっていなかった若者へのアウトリーチを行う。 ②支援者育成の課題を解決することにより、大阪を中心とした関西圏における制度のはざまで困窮する若年層の根本的な支援ができるネットワークを構築していく。 精神疾患等により職場を離れた方のうち、行政の支援にもつながらず、友人知人と関わることも減る等して孤独・孤立状態にある方と、日常的な社会との接点でもあるカフェという場所でつながることを目指した。 カフェを入口として、相談の中で必要な社会資源へつなぐことをを目指した。

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ カフェの商品の卸先…商品をきっかけに相談窓口のことを知ってもらい、相談窓口への入口を増やす
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会の講師…地域で活動している団体や行政職員等に、他の支援現場のことを知ってもらう ・ 勉強会の参加者…それぞれの現場での考え方や現状等をシェアしあい学び合う
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>店舗の商品棚にカウンセリングチケットを掲示：商品からカウンセリングにつなげていくために、店舗にカウンセリング招待券を掲示した。カフェにたまたま来られた方が相談へつながったというケースも増えた。</p> <p>店舗の LINE（スタンプカード）から、相談申し込みができる導線を設定：相談申し込みへのハードルを下げるため、相談申し込みへの導線をできる限り簡素にした。Web サイトから申し込みをする方法から、LINE だけで申し込みが完了するようにした。また、カフェのスタンプカードを LINE で行うことで来店者と自然に LINE でつながることができ、LINE から相談の申し込みができるようにすることで、別の接点から相談へつながりやすくする設計に見直した。</p> <p>パンフレットを見直し相談への導線を記載：商品パンフレットにも、商品のコンセプトと一緒に相談が無料で受けられることを明記した。</p>
定性的な成果 定量的な成果	<p>勉強会参加者へのアンケート結果から、他団体との交流によるスタッフの学び合いの価値を実感いただくような場になったと考える。</p> <p>また、場づくりでは仲間を頼れるような機会を、個別カウンセリングではスタッフを頼れる機会を作ることで、参加者へのアンケートの結果、「家族以外の他者との会話の機会が多い（85%）」「相談できる人が多い（77%）」等、第三者との会話機会や相談できる人が増えていると回答した人が多く、良い変化が見られたと考える。</p>

(3) 取組の様子

 <p>「居場所」などではたらく 相談員のための勉強会 vol.1</p> <p>入口の支援 アセスメント を学ぶ</p> <p>10.24 Thu 19:30～21:00</p>	
--	--

団体概要

団体名	一般社団法人 NIMO ALCAMO
代表者	吉市邦人
設立年月日	2020 年 11 月 11 日
スタッフ数	2 人 + 非常勤数人
団体住所	大阪市東住吉区南田辺 1-1-10
ウェブサイト	https://nimoalcamo.com/
メッセージ	カフェ、駄菓子屋、図書室等、それぞれの場所が入口となり、支援が必要な人とつながっていくためには、多種多様な相談事をいたん受け止め、必要な機関へつなぐことができるスキルの必要性がより一層高まっていると思います。次年度以降も、そういう受け止めができるスタッフ育成を進めていきたいと考えています。

団体名：NPO 法人 SKY

取組地域：大阪府内

取組名：中高年男性の孤独・孤立予防対策

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
☆ 食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	こども・若者	★ 中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

（1）取組の内容

目的	<ul style="list-style-type: none">孤独・孤立リスクの高い「働く中高年男性」を対象に、家でも会社でもないコミュニティの場を提供コミュニケーション力やセカンドキャリアへの気づきを得て、セルフヘルプのスキルを身につける
対象とした人	中高年男性
内容	会社組織から卒業後の孤独・孤立を防ぐために、一般的な中高年男性特有の弱点ともいえる①セカンドキャリア形成 ②コミュニケーションスキルの向上 ③簡単な手料理 ④内省 ⑤地域とのつながり ⑥新しい趣味に出会うという 6 分野にわたるワークショップを行った。定年後等のライフステージの移行をより容易にするための心構えやスキルを身につけることで、孤独・孤立リスクを低減することを目的とする。 幅広い年齢層の方のニーズに応えられるように、本事業の対象者は 60 代を含めて募集した。 ワークショップの開催は月 2 回の実施とし、多くの対象者が参加しやすくなるよう、開催曜日は土日の日中とした。

(2) 取組の成果

連携した団体	大阪府福祉部地域福祉推進室地域福祉課：一般社団法人関西経済同友会様を紹介いただき、広報に協力いただいた。
協力いただいた団体	大阪府社会福祉協議会、大阪市社会福祉協議会：各区への広報に協力いただいた。 大阪市生涯学習センター：「新しい趣味に出会う」のパートにおいて講師を紹介いただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	市民の目に留まりやすい社会福祉協議会からの広報機関紙等に募集内容を掲載、公民館や図書館等市民の目に留まりやすい場所に募集ポスターを掲示した。 現役の会社員への広報として関西経済同友会のメールマガジンに掲載いただいた。 自治体の孤独・孤立プラットフォームイベントに参加し、広報活動を行った。 SNS等で「孤独・孤立」をキーワードとして広報活動を行った。
定性的な成果	事業の事前・事後でアンケート調査を行った結果、以下の成果が認められた。
定量的な成果	【「孤独感」への気づき】事前に行ったアンケートでは「孤独感尺度」に高低のばらつきが多かったが、事後の調査では数値がやや高い位置で平均化しており、参加者が自らの「孤独感」について「気付き」を得て正しく理解することができたと考えられる。 【新しい活動場所での意識改善に貢献】事前の調査から本事業に対する期待が「楽しそう」というものであることがあったが、事後の調査でその期待に応えられたことがわかったため、「新しい場所でも楽しい体験ができる」という成功体験が今後の行動力に影響を及ぼすものと考えられる。 【事業終了後のつながり】本事業終了後に参加者自らコミュニティを立ち上げて「街歩き」イベントを実施した様子があり、孤独感を自らコントロールする力を身につけ「緩いつながりづくり」を実現することができた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	N P O 法人 S K Y
代表者	藤田 公恵
設立年月日	2019 年 6 月
スタッフ数	10 人
団体住所	大阪市生野区新今里 3 丁目 6 番 14 号
ウェブサイト	https://esukeiwai.jimdofree.com/
メッセージ	現在孤独や孤立に縁のないと思われる中高年男性への「予防的事業」として今後も取り組んでいきます。 定年後の地域社会へのスムーズなライフステージの移行とともに「孤独感」によるメンタル不調予防及び自己肯定感の向上、また地域共生社会やフレイル予防等にも貢献する事業だと考えています。

団体名：一般財団法人 ヒューマンライツ協会

取組地域：大阪府 大阪市

取組名：孤独・孤立を生まない、子どもと地域のつながりの場づくり事業

取組の種類

1. つながりの場づくり	
☆ 交流の場の提供	★ 居場所づくり
☆ 食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築	
地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援	
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組	
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化	
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	★	子ども・若者	中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯		☆ 不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人		支援者支援

(1) 取組の内容

目的	地域特性により、家庭環境等から子どもの新たな経験、体験機会が失われる場面がある。子どもが出生地により現在から将来に渡って不利益を被らない、他者と不平等にならないようにするために、基礎学力向上、将来の就業に対する前向きな意識づけ、体験機会の創出を軸に、子どもや家庭が目的意識を持って集まる場所を作る。
対象とした人	地域の小学生と保護者、基本は地域の人であれば誰でも参加対象となる。メインターゲットとしては中間層に位置する家庭と子ども、支援を受ける対象ではないが生活に困りごとがあり、その声を上げることが難しい人を想定している。
内容	今回の事業は子どもが孤独・孤立に至る過程を改善するための取組を主として行った。地域課題にある背景を改善し、負のサイクルに陥る前の未然防止として、多様な活動（居場所・学習支援・読書啓発・農作業体験・食育・日本語教室等）を地域の子ども・家庭が選び、主体的に活動に参加することで、子ども達の自主的な学びを生み出した。また子どもが運営を行う「にしなり子ども未来祭り」を開催し、子ども達が自分で考えて運営する場や、企業と連携して行う職業体験から、将来の就労について考える場をつくった。家庭全体で将来について話すきっかけをつくり、前向きな思考になることで孤独・孤立からの脱却を図る取組とした。

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小・中・高校における地域担当の先生と月2回の情報共有会議を開催した。また小学校2か所にて情報共有会議を実施した。
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> 活動内で専門講師が必要なものは大学や他団体と連携した。 こどもイベントにて西成警察署や地域の団体、企業等と連携し、イベント出店につなげた。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> こどもの各活動における成果発表も兼ねて、こどもが主体のこども祭りを開催した。成果発表の場を作ることで家庭の参加を促し、家庭状況の深堀りをし、対象者の発見につなげた。 活動に保護者も参加しやすい、興味を持てるテーマを設けた。こどもの睡眠や足育等、保護者の関心が高いテーマについて外部講師を招き活動を実施することで、保護者の参加を促し家庭全体の孤独・孤立を防止できるようにした。
定性的な成果 定量的な成果	<p>(定性的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業により、2名のスタッフ雇用が可能となり、マンパワー不足からの脱却、活動の質向上に寄与した。 <p>(定量的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の事業・活動に参加した児童の来期継続意向が90%となり、活動の質を高めたことで継続率が向上した。 核となる小学2年生の参加者が昨年は3人だったが7人となり、認知度が高まっている。 来期につながるところとして、学校側の要請もあり、現在2校対象の支援活動が来期より3校対象となることが決まった。さらに孤独・孤立の防止ため広く家庭とつながることができる体制がつくれた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般財団法人 ヒューマンライツ協会
代表者	寺本 良弘
設立年月日	1993年12月1日
スタッフ数	10人
団体住所	大阪府大阪市西成区出城2-5-9
ウェブサイト	http://www.human-ref.jp/
メッセージ	今回の事業展開により、団体としては人材の確保による、各種活動の成果目標達成、活動の周知、参加者増等に大きくつながりました。その結果、孤独・孤立に陥るこども・家庭の発見と支援が、単発的なものではなく、事業として計画的に実施できたことがこの先の行動につながると思います。

団体名：認定特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構

取組地域：大阪府 大阪市

取組名：孤立・クローゼットの奥にある新世界ジェンダーフリーシエッド

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	☆	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆	多世代	こども・若者	☆	中高年者	高齢者		障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等	☆	LGBTQ
	子育て世帯	ひとり親世帯		単身世帯			不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人	★	生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人		支援者支援

(1) 取組の内容

目的	<ul style="list-style-type: none">ぬぬぬぬぬう！俱楽部：コミュニケーションが不得手な方の孤独・孤立を緩和できるプログラムを作り出すことベンチプロジェクト：社会から評価される機会が少ない方々が地域で活躍できる場をつくることファッショントリビュート：参加者が自分自身の中にある自由や可能性に気づき、孤立の緩和につなげること
対象とした人	シェルターで生活する方やホームレス状態で生活する方、日雇労働者、生活困窮者、生活保護を受けて地域での生活に移行した方等を対象とした。 また、「ファッショントリビュート」はセクシャリティに関して孤立を感じながら自分らしさを探している方を対象とした。
内容	<ul style="list-style-type: none">ぬぬぬぬぬう！俱楽部：1つの空間に集まり、ミシンや縫いものを介した手作業に集中できる時間を提供することで、自然に間の取れる会話の機会や、作業空間の共有による「参加」を実感できる取組を実施した。ベンチプロジェクト：日頃、農地として農作業の場となっている屋外に設置するテーブルやベンチづくりを実施した。ファッショントリビュート：性自認や性的指向について、着てみたい衣服を選んでマネキンに着せて屋外撮影を行う機会を作ることで、撮影された写真を使い匿名で想いを発信できるようにする取組を実施した。

(2) 取組の成果

連携した団体	地元事業者、地域の多様な福祉的支援を担う団体等と、事業の円滑な遂行や広報活動の面で連携した。大阪ホームレス就業支援センター、公益財団法人西成労働福祉センターには、「中高齢の日雇労働者やホームレス生活者の収入増の必要性と生きがいづくり」という観点で関心を寄せていただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の団体、飲食店、ショップ等に直接出向き、フライヤーを置かせてもらうと共に、「周囲からの孤立を感じながら、自分らしさを探している人たちが集まる場所をつくりたい」と直に伝えていった。 ・ 当法人内の各事業部の情報共有を強化し、複数の事業部のスタッフを通して参加の呼びかけを行った。 ・ 「ミシンは電動工具」というキャッチフレーズを作り、男性でも関心を持ちやすくなるよう工夫した。 ・ 準備段階から参加予定者とのコミュニケーションを大切にし、意見を取り入れるようにすることで参加予定者の関心が高まるよう配慮して進めた。 ・ 地域のイベントを活用した広報や SNS を活用した広報に取り組んだ。
定性的な成果	・ ぬぬぬぬぬう！俱楽部：5回開催、参加延べ人数 27人
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチプロジェクト：7回開催、参加延べ人数 91人 ・ ファッションの新世界：サンプル撮影1回、服飾コーディネイト2回、本撮影1回、参加延べ人数 3人 ・ 定性的成果：失敗しても問題ないことを丁寧に伝えることにより、参加の一步を踏み出し、達成感を持っていただくことができた。同じ目標に向かって作業する集団への帰属意識が生まれた。参加者一人ひとりに自信や希望、自己効力感が生まれた。衣類を介したコミュニケーションにより、リラックスした状態で異なる考え方や捉え方を試す機会が生まれた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	認定特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構
代表者	理事長 山田 實
設立年月日	1999年9月30日
スタッフ数	113人
団体住所	〒557-0004 大阪府大阪市西成区萩之茶屋1丁目5番4号
ウェブサイト	https://www.npokama.org/
メッセージ	<p>これからもジェンダーフリーな手仕事づくりを継続的に行い拡大していきます。</p> <p>孤立に苛まれた心を癒やして再生しうる場はどうつくりていけるのか、引き続き試行錯誤します。</p> <p>コラボしていただける団体を募集しています。</p>

団体名：ハレトケの会

取組地域：大阪府 大阪市

取組名：あいりん地区単身高齢者のつながりづくり・支援者間のネットワークづくり

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
★ 地域の包括的見守り体制の構築	☆	アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	★ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	日雇い労働者のまちとして有名なあいりん地区（通称釜ヶ崎）において、路上生活をしていた方が生活保護受給に移行したとしても、日々することがなく人とのつながりから孤立してしまうケースが多い。このため、小さな仕事と役割を創出することや、そこに行けば誰かと出会えるような場所をまちの中に設置することを目的とした。
対象とした人	あいりん地区（通称釜ヶ崎）は日雇い労働者のまちとして発展し、経済状況の変化から、2000 年前後には約 3,000 人が路上生活を余儀なくされた。その後、路上生活から生活保護受給に移行された方も多いが、その方たちが高齢化して、単身高齢者となっている。近年は障害者の居住も多い。
内容	「萩小の森」でコーヒーを飲むお茶会を開催し、そこで囲碁や将棋を行う交流イベントを行った。また、地域の空き店舗をお借りして、毎週水曜日にコミュニティカフェを実施し、コーヒーの焙煎を行う等して小さな仕事と役割を創出し、定期的なイベント開催を通じた出会いとつながりづくりに取り組んだ。 「美術部」「合唱部」を結成し、活動や福祉作業所に関わる人たちのためにライブ活動を行った。合唱部は、釜ヶ崎越冬まつりのステージに参加した。 「孤独・孤立」について話し合うためのトークイベントを企画し、活動の中で感じる課題や悩みについて言語化して意見交換する取組も企画・実施した。

(2) 取組の成果

連携した団体	地域の福祉支援団体「福祉支援者の集まり」（情報共有・意見交換）、社会連帯ワーカーズひよんの実珈琲俱楽部（コミュニティカフェの運営）、萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社、あいりんベンチプロジェクト、NPO法人釜ヶ崎支援機構等と連携した。
対象とした人とつながるために行った工夫	釜ヶ崎では日雇労働者の寄場であった「あいりん総合センター」の建て替えが予定されており、新しい施設に「福祉的なワンストップ相談窓口」を設置してほしいという要望を、地域の福祉支援団体「福祉支援者の集まり」で話し合っている。この会議には行政主催のワンストップ相談窓口を検討するための会議体の出席者も参加しているため、情報共有や、行政の有識者や西成区担当者を招いて意見交換を行っている。 こうした総合的な相談窓口に向けた取組と日常的に地域に開いているコミュニティカフェでつながりながら対象者を受け止められるように工夫した。
定性的な成果	・ コミュニティカフェの利用者 延べ 194 人
定量的な成果	・ 萩小の森パンダ杯参加者（囲碁・オセロ大会） 18 人 ・ クリスマス会の参加者 21 人 ・ 連続トーキイベントは、当初 5 名から、第 5 回目の時は 16 名に増加して関心が高まったのが感じられた。 定性的効果：コミュニティカフェでは、単身高齢者、ひきこもり、障害者とその家族、シングルマザー、LGBT の人、精神の病をもつ人等の事情はそれだけだが、社会で働く場を見つけづらい人同士が協力して運営を行うことができた。それぞれの人の得意なこと、好きなことをカフェの運営に活かして活躍してもらえた。一連の取組を通じて、人同士のつながりが増えていくのを感じた。「お椀に入ったお味噌汁を飲んだのは 10 年以上ぶりかもしれないな」という人や、「お雑煮を食べたのは 30 年ぶり」という人もいた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	ハレトケの会
代表者	小手川 望
設立年月日	2013 年 7 月 1 日
スタッフ数	2 人(本事業に関わった人：10 人)
団体住所	大阪市西成区出城 3-2-1-203
ウェブサイト	https://www.facebook.com/haretokenokai/
メッセージ	社会保障制度は家族単位が前提で制度の狭間に落ち込む人がいます。頼るものも家族もない人を泥臭く手弁当で支えている状況があります。民間の支援者こそ孤独な存在です。資金もなく相談できる先もなく良い展望もないです。健康と安全を大事に仕事ができる環境ができればと願います。

団体名：一般社団法人 タウンスペース WAKWAK

取組地域：大阪府 高槻市

取組名：まちかどでおしゃべり～地域で安心して生きていく～

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
★	地域の包括的見守り体制の構築	☆	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	★ 生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	活動場所である高槻市営富寿栄住宅には、独居高齢者や障害者、外国籍住民等で生活困窮者も住んでいる。経済的背景等から、長く引きこもっていた人や、様々な事情で働けなくなった 30 歳代後半から 60 歳代前半層の人を見守り、ニーズに応じたサポートをする。
対象とした人	市営住宅に住んでいる経済的に貧しい人のうち長くひきこもり、近所付き合いもない 30 代後半から 60 代前半の人たちを対象とした。
内容	緊急食料支援を行っている対象世帯に対して、家族間での悩み事の相談を受けている。携帯電話やメール、LINE 等も含めてコミュニケーションを取ることで、対面での相談につなげ、ニーズを引き出しながら支援を行っている。また、映画鑑賞等などに誘って、積極的に外に出られるようなサポートもしている。 新春交流会を開催した際は、自治会の支援のもと、地元の浪曲師を招き、地元文化の継承と住民交流を深める場を設けた。対象者も前向きに参加し、会場整備やグループワーク等に積極的に関わり楽しかったという意見もいただけた。

(2) 取組の成果

連携した団体	FCT メディア・リテラシー研究所（メディア・リテラシー講座で講師を依頼）、自治会組織（毎月 1 回の三役会議・毎月 1 回の役員・班長会議）、富田富寿栄老人会、高槻市立富田ふれあい文化センター、高槻市・都市創造部住宅課
対象とした人とつながるために行った工夫	日常生活の中で、対象者が不安になった時には、必ず連絡がとれるようにした（LINE・電話）。また、当法人担当者だけでなく、ネットワークを組む相談員や行政担当者にも報告、連携し、対象者と共に解決に導いていった。その際は本人にも確認をとりながらサポートした。多種多様なチームで支えることが重要だと考える。ニーズをもとに、連携する団体と一緒に本人が選べるチャレンジを提供し、自立するまで伴走を続けるよう努力した。
定性的な成果 定量的な成果	対象 10 ケースのうち深刻な 2 ケースについては、親との共依存の関係を徐々に解消できつつある。まだごども側の課題があるため、親族や支援者も入って、徐々に自立に向けた取組を進めている。1 ケースは就職できた。もう 1 ケースは今後医療機関への受診が必要である。2 ケースとも引き続きサポートを行う予定である。 対象となる 91 世帯はすべて、自治会に加入している。そのため、本人に会えていないケースでも、自治会会員として家族には会えている。イベントを行うことで、対象者が参加しやすい環境づくりをした。 今回の事業では、見守りを行った 10 ケースすべてについて、個別の支援に加え、近隣住民とのゆるやかな関わりができるることを目指していた。91 世帯の関わりはもちろん、老人会役員等との関わりを創出できている。また、行政や民間、地域組織や医師、専門家を足せば 200 人規模のつながりができている。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 タウンスペース WAKWAK
代表者	代表理事 岡本 茂
設立年月日	2012 年 4 月 2 日
スタッフ数	11 人
団体住所	大阪府高槻市富田町 2 丁目 13-8 ハイツ白菊 1F
ウェブサイト	https://ts-wakwak.com/
メッセージ	この事業を進めてきたことで、「人は人の社会の中で生きていくことがどれだけ大切なか」を再度、実感しました。自分の人生を生きるための種を蒔き、水や光や肥料を与え、害虫を退治し、花が咲き、実がなるような気の長い取組を行っていこうと考えています。

団体名：一般社団法人 ケアと暮らしの編集社

取組地域：兵庫県 豊岡市

取組名：社会的処方推進プラットフォーム開発プロジェクト

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供	☆	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置	★	支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
☆	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★	多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	☆	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
	子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人		支援者支援

(1) 取組の内容

目的	本プロジェクトでは、地域住民及び支援者が簡便に社会的処方を活用できるデジタルプラットフォームを開発した。このプラットフォームには、地域にあるフォーマルなサービスの他にも、インフォーマルな市民活動やコミュニティに関する情報や参加方法を記載し、地域住民の孤独・孤立を解消するための基礎資料とすることを目的としている。
対象とした人	孤独感を抱える方 趣味や好きなことを通じて人とつながりたい方 家庭、職場、学校以外のサードプレイスを求めている方 失業中の方 社会復帰を目指す方 障害を抱える方
内容	<ul style="list-style-type: none">趣味・社会参加に関するアプローチ：地域の文化活動を行うサークルを訪問や電話等の手段で情報収集、整理し、プラットフォームにまとめ、趣味を通じて人とつながりたい方へ情報提供した。コミュニケーション・居場所づくりに関するアプローチ：地域の居場所となり得る場所を訪問や電話等の手段で情報収集、整理し、プラットフォームにまとめ、孤独感を抱える方が集まる場所の情報として提供した。就労に関するアプローチ：就労支援施設や就労支援の取組を実施している企業、NPO 法人等と連携し、就労訓練の場やボランティア活動の機会を提供できるか情報収集しプラットフォームにまとめた。また、失業中の方、社会復帰を目指す方、障害を抱える方等が相談に来られた際に情報提供した。

(2) 取組の成果

連携した団体	社会的処方先となり得る場所を訪問し、情報収集と社会的処方先となり得るかのアセスメントをした。市内の行政窓口や医療機関に加え、サークル活動や地域住民の居場所になっている飲食店等、インフォーマルな場所も含め幅広く訪問した。情報共有媒体としての活用に協力いただけそうな団体・組織とともに運用方法を検討した。
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>日常的に訪れることができる図書館・本屋として「だいかい文庫」という拠点があり、貸し出し本や販売本を通してコミュニケーションを取ることができる環境がある。この環境を活用しながら次の工夫を取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本やカフェでの自然発生的な会話を通して、本人のニーズを引き出していることである。本人の関心や感情について、来館時の何気ない会話から感じ取ることができた。雑談から派生した相談に対して、本プラットフォームを活用して市内にある地域資源の情報提供につなげることが日常的になってきている。 ・ アウトリーチにより、生活の動線上で社会資源とつながる機会を作った点である。市立図書館等の公共施設のみならず、喫茶店、映画館、スーパー等、生活の動線上にチラシを設置した。また、その施設の方との情報交換を行うことで、社会的処方が必要な対象者とつながることができた。 ・ つながりを維持するために、前述のように日常的にアウトリーチをしていることや、だいかい文庫という拠点に定期的に足を運んでもらえるような本の貸し出し、「まだ行こう」と思える空間作りを模索している。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォーマル/インフォーマルな社会的処方先の情報収集数：155箇所 ・ 兵庫県豊岡市やその近辺のインフォーマルコミュニティの可視化：社会的処方先に関するデータベースが構築されたことで、リンクワーカーの役割を持つ人が情報提供をしやすくなった。 ・ 多様なステークホルダーとの連携：関係機関や市民との継続的な意見交換を通して、地域ニーズを細かく反映し、地域社会全体で孤独・孤立解消を支えることができる包括的なシステムを構築している。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 ケアと暮らしの編集社
代表者	守本 陽一
設立年月日	2020年11月
スタッフ数	スタッフ4人、ボランティア12人
団体住所	〒668-0033 兵庫県豊岡市中央町6-1
ウェブサイト	https://carekura.com/
メッセージ	生活の動線上に誰かとつながる入り口がたくさんある社会であれば、「1人じゃない」と思うことができます。それは、悩みごとやつらいことを乗り越えていく時の希望になると思います。 そのような入り口を増やす取組が今後ますます広がっていくように願いながら、活動を続けようと思います。

団体名：特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会

取組地域：兵庫県 養父市

取組名：空家の再生を通じた「新たなつながりプラットフォーム」構築事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆	多世代	☆	こども・若者		中高年者	★	高齢者		障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ
	子育て世帯		ひとり親世帯	☆	単身世帯		不登校の児童生徒		ひきこもりの状態にある人		生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人			支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	①人とのつながりを構築する起点をつくる。 ②同種の地域課題に直面している他地域の希望をつくる。
対象とした人	本事業の対象は、一次的かつ直接的には、明延（あけのべ）地域で生活している高齢者を対象としている。もっとも、本事業は、空き家の再生を通じて、人とのつながりをつくる起点をつくることにある。その意味では、そのプロセスの中で関わるすべての方、また、再生した空き家を訪れるすべての方も対象としているといえる。
内容	①明延地区にある空き家を改修し、次の(a)～(c)の機能を備えた場所に生まれ変わらせる。 (a)日用品の買い物ができる（明延購買部） (b)オンラインを用いて医療福祉サービスにつながれる（テレビ病院） (c)地域内外の方の交流が生まれる（空想土産屋） ②SNS 等を活用し外部のリソースを積極的に活用する。 ③取組をすすめる中で多くの方に関わってもらえるようなフックをつくり、改修後を見据えファンを獲得していく。

(2) 取組の成果

連携した団体	・次の団体と実行委員会を組成した。
協力いただいた団体	養父市明延区・養父市社会福祉協議会・コミュニティデザインラボ（三股町社会福祉協議会）
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>①まずは、活動地域である明延のことを知る（地理的・歴史的・文化的な観点から）</p> <p>②明延地域の方に私たちのことも知ってもらう（当事業にかける思い）</p> <p>③双方向・多方向でのコミュニケーション（地域住民だけでなく、当事業に関わる地域内外の方との意識的な意見交換）</p> <p>④明延地域のキーマンとの密な連携</p>
定性的な成果	（定性的成果）明延地域に暮らす高齢者の方の多くが日常的に現場を訪れ、地域住民同士の交流だけでなく、ボランティア等で訪れている方との交流が生まれた。最近では、明延地域の高齢者が、再生させた建物についてどのように利用したいか希望を語るようになった。主体的な参加の気運、人との新たなつながりが生まれる端緒が感じられる。
定量的な成果	（定量的成果）【アウトプット】ボランティアとして関わっていただいた方の延べ人数は250人を超えた。地域外から多くの方が参画した。また杖をつきながら、あるいは支援者に体を支えてもらしながら、作業を見守りに訪れる高齢者も一日平均6名ほどいた。【アウトカム】行政と連携協力し、オンライン診療・相談の窓口機能を充実させるための動きが始動している。また、養父市の小売業者等と会議体が組成され、明延購買部の充実に向けた仕組みづくりも始動している。加えて、明延地区と他地域の高齢者の交流の場（サロン等）をつくろうとする動きも進んでいる。そこをモビリティでどのようにつなぐか、移動手段を検討する動きも出てきている。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会
代表者	千葉 義幸
設立年月日	令和元年12月9日
スタッフ数	7人
団体住所	兵庫県豊岡市高屋 1061-6
ウェブサイト	https://tms-net.org/
メッセージ	本事業の取組がより充実したものとなるよう、次年度以降も引き続き活動を継続していきます。 そのためにも、様々な人や団体、行政をはじめとした関係機関とより緊密に連携して活動をしてまいります。

団体名：社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

取組地域：鳥取県内 全市町村

取組名：ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり	★	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆	多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
	子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	★	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援

(1) 取組の内容

目的	様々な理由によってひきこもりの状態や就労への意欲が低下している状態の方々が、一人ひとりにあった就労体験を通して役割を持ち、他者と緩やかに交流することで、塞ぎこんでしまった状態から少しづつ自信や社会性を取り戻し、生活のしづらさの克服や、地域社会とのつながりづくりができることを目指す。
対象とした人	<ul style="list-style-type: none">様々な理由によりひきこもりの状態にある方就労への意欲、気力が低下している方再び社会参加や交流を求めている方 等
内容	農作業や調理体験、動物との触れ合いを通して対象者と相談員が関係を築きながら、対象者の社会参加にアプローチした。農作業では野菜を育てるために一から畑を耕し、試行錯誤を重ねながら、種まきや害虫対策も行った。調理体験では農作業での収穫物を同じ境遇のひきこもりの状態にある方、発達障害のある方、相談員を含む職員たちがメニューごとにチームに分かれて「料理の鉄人」と称した料理対決を行った。動物を介したアプローチでは、散歩をしたりおやつをあげたりして同じ時間を過ごし、心を開いて犬と触れ合うなかで、犬を介して場を共有していた地域の方や他のボランティアとの距離も近くなり、交流を重ねるようになった。ひきこもりの状態にある方等の社会参加に向けた支援の輪を広げるためにセミナーを開催した。

(2) 取組の成果

連携した団体	えんくるり事業（県内の複数の社会福祉法人が連携して実施する「生計困難者に対する相談支援事業」）に参画している各法人（障害者支援施設、介護施設、保育施設、市町村社会福祉協議会等）に対し、本事業の説明や受入の依頼、対象者について情報共有を行った。
対象とした人とつながるために行った工夫	相談員は対象者と関わる際に、まずは自己開示し、対象者の意思を否定せず、同じ時間、物事を一緒に考えながら取り組んでいくことを意識した。就労が決定し体験終了した対象者に対して、就労先の職員に様子を聞く、LINEで連絡をとる等して関わりを継続している。体験就労後の対象者の心身の状態が思わしくない場合、体験受入施設に招き食事をしたり雑談をしたりすることで、対象者が抱えた思いを打ち明けやすいよう工夫し、人とのつながりを絶やさないよう取り組んでいる。
定性的な成果 定量的な成果	小学校高学年からひきこもりの状態にあり、普段の生活で何もしていない・無力感がある一方で、長年自分を支えてくれた母に恩返しをしたいと考えていた方が、受入施設法人との関わりや就労体験を通して気持ちが前向きになり、もっと色々なことがしたい、という意欲が湧いた。農作業や調理体験を通して、母に料理を振る舞い喜んでもらえたことも、対象者にとって自信や自己肯定感の高まりにつながった。 中学生から不登校であった対象者は、犬を介して他者との関わりを深め、「人と関わるのは苦手だったが、知っている人たちと距離が近くなった。心を開いていいけるようになった。」と嬉しそうに語っていた。当初は犬と触れ合うことにも苦手意識があったが、就労体験を通して犬が人に寄り添う優しさに触れ、次第に緊張やこわばりがほぐれ、表情や雰囲気が柔らかくなっていく様子、人との関わりも深めていく様子がうかがえた。 就労体験を通して、お金を貯めて身なりを整える髭剃りを購入できたことで、「自分が頑張ったことで得たお金」と「就労を続けることで給料を貰うことや欲しいものを買える喜び」というイメージが付きやすくなったように思う。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	鳥取県社会福祉協議会
代表者	藤井 喜臣
設立年月日	1955年10月
スタッフ数	90人
団体住所	鳥取県鳥取市伏野1729-5 鳥取県立福祉人材研修センター内
ウェブサイト	https://www.tottori-wel.or.jp/
メッセージ	孤独・孤立対策には、地域の人とのつながりを作ることがとても大切だと思います。本人の生活の場として、地域で「あなたを待ってるよ、受け止めるよ」という思いを持つ方が増えたら嬉しいです。生活のしづらさを抱えた方が地域に目を向けた時に、「受け入れてもらえる」という安心感を持ってもらえるといいなと思います。

団体名：特定非営利活動法人 地域共生とつとり

取組地域：鳥取県 鳥取市

取組名：こども・若者に対する孤独・孤立対策事業の推進

取組の種類

1. つながりの場づくり	
交流の場の提供	居場所づくり
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築	
地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援	
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組	
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化	
地域の NPO 等への支援	★ 官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	★	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援

(1) 取組の内容

目的	鳥取市のこども・若者分野で活動する団体に対し、孤独・孤立問題に関する情報交換会等を開催することで、こども・若者分野での孤独・孤立対策への機運を醸成する。最終的には、現在設立されている「麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」への参画や協力を得ることで、あらゆる世代を対象とした事業に発展させる。
対象とした人	こども・若者世代の孤独・孤立状態に陥っている方を対象とした。
内容	鳥取市のこども・若者分野で活動する団体の情報を関係機関や団体から入手し、直接訪問をして事業説明を行い、活動内容、活動において実施している孤独・孤立対策について伺った。その後、他県で先進的な取組を実施している講師をお呼びした講演会を開催し、先進事例について学んでいただいた後、団体間の交流を深めるグループワークを実施した。また、最終的にはヒアリングを実施した団体に現在の鳥取市の孤独・孤立対策に対してのご意見やご提言をいただく意見交換会を実施し、2025年3月に実施した麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会議において、その内容を共有した。

(2) 取組の成果

連携した団体	麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの参画団体、鳥取市社会福祉協議会、鳥取市と連携した。鳥取市社会福祉協議会には、鳥取市で活動しているこども・若者分野の団体を教えていただき、プラットフォームの参画団体には、委託事業で築いた関係を活かして対象団体を推薦いただいた。
対象とした人とつながるために行った工夫	つながった団体とは会議や研修会等でお会いした際に必ずコミュニケーションを取り、お互いが主催する研修会等の情報交換を行い、当団体も可能な限り参加して関係性を深められるよう努めた。
定性的な成果 定量的な成果	対象者に対する直接的な支援までは至らなかったが、一つの目的である対象者を支援する団体間の連携やつながりを生み出すという点においては、10月に開催した先進事例について学び団体間の交流を深める講演会のアンケートにおいて、「とてもよかったです」「よかったです」と回答した割合が85%となっていることや、「今後につながる良い出会いがあった」「ネットワークをつくりたい」とのつながりや連携に関する前向きなコメントがあったことから、一定の成果があったと考えている。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 地域共生とつどり
代表者	竹本 匠吾
設立年月日	2013年3月12日
スタッフ数	8人
団体住所	鳥取県鳥取市湖山町南一丁目 569番地
ウェブサイト	なし
メッセージ	孤独・孤立問題は難しい問題ですが、何もしなければ苦しみを抱え続け、自らを傷つけてしまったり、最悪の場合、死を選ぶ人が減ることはないでしょう。一人でも多くの人が幸せに暮らせる地域社会にするためにも、一つでも多くの団体がこの問題に取り組んでくださることを願っています。

団体名：鳥取医療生活協同組合

取組地域：鳥取県 鳥取市、湯梨浜町

取組名：地域に潜在するスペースを利用した居場所づくりと効果

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		★ 居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
☆ 地域の包括的見守り体制の構築		☆ アウトリー型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

☆ 多世代	こども・若者	中高年者	★ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	<ul style="list-style-type: none">地域に居場所（たまり場）を増やす参加者や担い手を増やし地域の孤独・孤立解消、健康づくりを推進する
対象とした人	鳥取医療生協の4つのたまり場（日進支部おしゃべりカフェ、楽らくカフェ、たまり場ふらっと、たまり場とまり喜）に通っている方を対象とした。
内容	<ul style="list-style-type: none">たまり場ができる前、できてからの心身の変化を調査するアンケートを作成し回答してもらった。1回目：10月～11月頃 44通、2回目：11月～12月頃 41通（合計85通）各たまり場で工夫し（チラシや立て看板、のぼり等を使用）、だれもが気軽に立ち寄れる場として、たまり場を知ってもらうことに注力した。（特に、ご近所の人と話す機会がない、一人で食事をしている方等を対象）2月4日にたまり場交流会を実施した。活動報告、開催場所の提供者の話、アンケート結果報告、そして、東京保健生活協同組合大泉生協病院院長に、オンラインで『通いの場の健康効果』についてのお話をいただいた。

(2) 取組の成果

連携した団体	4つのたまり場の中のひとつである楽らくカフェは、鳥取県生活協同組合に場所を提供していただき、鳥取市社会福祉協議会と鳥取南地域包括支援センターと鳥取医療生協が連携して活動した。具体的には、連携してアンケートを実施し、たまり場を広めるためにどのような活動が必要か等について話し合った。
対象とした人とつながるために行った工夫	高齢で目が見えにくい、文字を書くことが難しい等の状態の方にはアンケート調査ではなくインタビュー形式の調査を実施した。その結果、たまり場ができる前の状況や経緯等を細かく聞き取ることができた。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果、『たまり場』等の居場所がある人で『うつ傾向の減少』が見られた。実施数が少ないため結果の解釈は慎重にすべきであるが、たまり場が心の健康に影響を与えることが推測される。この結果を新たなたまり場づくりや、人を誘うきっかけとして活かしたい。 本事業の結果報告会をすることで他団体や人とつながることができた。 アンケート調査や報告会を経てたまり場の課題が見えてきた。健康に興味のない人への声掛けや、おしゃべりが苦手な人、行きたくても行けない人等々、そのような方々にどのようにアプローチをするかを今後考えていきたい。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	鳥取医療生活協同組合
代表者	組合長理事 竹内 勤
設立年月日	1951年7月11日
スタッフ数	750人
団体住所	680-0833 鳥取県鳥取市末広温泉町 203
ウェブサイト	https://www.mcoop-tottori.jp/
メッセージ	地域の声を聞くことで、新たな課題が見え、新たな団体、人とのつながりも生まれました。今後は、見えてきた課題を整理し、事業としてどのように取り組んでいくのかを模索していきます。さまざまな団体と協力しながら進めることで、新たな力が生まれると思うので、みんなで力を合わせて、取り組んでいただいたらと思います。

団体名：特定非営利活動法人 ピアサポートつむぎ

取組地域：鳥取県倉吉市、琴浦町、北栄町、湯梨浜町、三朝町

取組名：周囲の大人に理解され受け入れられる実感を生きる力に変える事業

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり		
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり		
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築		
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援		
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備		
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築		

取組の対象

☆ 多世代	★ こども・若者	中高年者	高齢者	☆ 障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
☆ 子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯		☆ 不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援

（1）取組の内容

目的	家庭において孤立することなく、その生活の場が、発達障害や不登校、ひきこもりの当事者にとって安心できる居場所となるよう、家族の理解や受容につなげる勉強会や交流会を実施する。それにより親子関係や家族関係を修復したり、本人や家族のセルフエスティーム（自己肯定感）を育て、生きる力を蓄えていけるように種まきすることを目的とした。
対象とした人	発達障害、不登校、ひきこもり等で不安を抱える家族（祖父母、父親、母親）及び本人（こどもや若者）
内容	対象とするこどもや若者の発達障害や不登校、ひきこもりの状態を理解し、本人の周囲にいる大人である家族や支援者、なかでも祖父母や父親が、本人や家族との関わりの中において、どのように現在の状態を捉えて受容していくべきか理解できるよう、心理教育的にアプローチする方法を取った。具体的には、まず発達障害を理解するための家族向けと本人向けの2種類のオリジナルテキストを作成した。併せてペアレントレーニングの手法を用い、「学び」の要素と、情報交換の場や相談の場を設ける「グループカウンセリング」の要素と、学びのあとカフェタイムとして定期的に集う「当事者会」としての要素を盛り込んだ勉強会を定期的に開催した。 本人も家族もそれぞれのセルフエスティームを高め生きる力につながることを念頭におき、安心できる場を作った。

(2) 取組の成果

連携した団体	児童相談所、倉吉市社会福祉協議会、倉吉市あんしんネットワーク会議、中部地区若者支援会議（若者サポートステーション、倉吉病院、鳥取青少年ピアサポート、ひだまり、さんせるとつとり事務所等）、ミラ・クル・とつとりプラットフォーム（情報交換、対応相談等）、鳥取大学地域学部・医学部（講演、アドバイス等）
対象とした人とつながるために行った工夫	今まで複数のSNSで活動の告知をしていたが、ウェブだけでは情報の受信者が限られるため、祖父母の参加を募るために地元紙への掲載を依頼した。これを見て参加申し込みをされた方も複数あり、紙面掲載は有効だった。SNSも従来通り活用し、公式ライン、Facebook、インスタグラム、X、ホームページ等で情報発信した。
定性的な成果	今までイベント等への参加が難しかった本人が、勉強会に参加したことをきっかけに、当団体で行われる様々なイベントに参加できるようになり、自らの意思でボランティアをし、褒められたり認められたりする機会が増えた。場にも人にも徐々に慣れ、日常のトラブルを相談できるようになった。個別のソーシャルスキルトレーニングを行う機会が生まれ、支援者と関わる時間が増え、それが本人の社会性の向上につながった。
定量的な成果	祖父母は本人と養育者の両方を見守る存在であり、熱心であるが故に親を追い詰め、間接的に孫を追い詰めるという関係性が見られたが、発達障害の特性や不登校やひきこもりの状態について正しく理解することや受容的な対応を知ることによって、祖父母自身の親子関係が改善され、更に孫との関係が改善された。 父親の参加は母親に促されたものが多かった。しかし定期的な開催によって父親の自主的な意思で参加される例も5割を超えた。ペアレントトレーニングの手法を学ぶ過程において母親との関係や子との関係が改善された。父親同士の情報交換や子育てに関する他愛のない話は、父親の心理的負担を軽減するのに有効である。 既学習者は、現在不安を抱えている者の良きメンターになることが示唆され、お互いの生きる力にもつながる。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 ピアサポートつむぎ
代表者	理事長 河本 純子
設立年月日	2022年3月28日
スタッフ数	理事4人、監事1人、スタッフ22人
団体住所	鳥取県倉吉市小田79番池15
ウェブサイト	https://sites.google.com/view/npo-tsumugi/
メッセージ	短い期間でも大きな効果を感じることができた事業です。それぞれの立場を尊重し誰も否定せず誰も傷つくことなく前向きに取り組めたのは、発達の視点を持ち、研修を受けた当事者がピアサポートの関係性の中で実施したことが関係していると思うので、そのような方を複数名配置できると、よりスムーズにいくのではないかと思います。